

両生類は自然環境の指標である

- 1 自治体名：ロシア連邦 ハバロフスク地方
- 2 発表者名：セルデュコワ アナスタシア (Serdyukova Anastasiya)
ハバロフスク地方立教育施設 児童創造センター「パラータ」
ソヴェツカヤ・ガヴァニ市 (Sovetskaya Gavan)
- 3 活動名：両生類の動物相の調査
- 4 活動期間：2015年夏季
- 5 活動場所：ハバロフスク地方
- 6 活動参加人数：2名 (第15号学校の教員と)
- 7 活動を始めた経緯：人間活動による両生類への影響を調べるために
- 8 発表概要：

ハバロフスク地方はロシア連邦極東地方の中心部に位置している。ここでは、ニホンアマガエル (*Hyla japonica*)、アジアヒキガエル (*Bufo gargarizans*)、トノサマガエル (*Pelophylax nigromaculatus*)、キタサンショウウオ (*Salamandrella keyserlingii*)、チョウセンズガエル (*Bombina orientalis*) 等様々な両生類が生息している。

ハバロフスク地方に生息している両生類は生息する地域によって「南方」と「北方」という二つのグループに分けられる。

両生類は、人間が環境に及ぼす影響の指標生物である。生物学者によると、脊椎動物門に属している動物の中で最も早い速度で絶滅しているのは両生類である。20世紀末、科学者たちは両生類が絶滅する多数のケースに注目を集めた。

有尾目と無尾目(カエル目)の破滅的な絶滅の主な原因は自然(病気のまん延、気候要因)と人間活動(農業、産業活動)によるものである。

両生類は農業害虫を食べる。多くの両生類は夜行性のため、昼間鳥が食べることができない害虫を食べる。そのため、両生類は我々にとって特別な存在である。

多くの両生類は水と関わりのある生涯を送っている。水中に産卵し、幼生は水の中で成長する。しかし、多くの種類の両生類の成体は大部分の時間を陸で過ごしている。

学校の生徒は様々なところで両生類の分布の調査を行っている。その目的は両生類のことをよく知ること、調査結果を学校の行事で活用すること、必要に応じて両生類を保護することである。

私も無関心でいられなかった。2015年の夏、ソヴェツコ・ガヴァニスキー地区マイスキー (Maiskii) 町周辺では、様々な生物生息空間(ビオトープ)に両生類がどのように適応しているかフィールドワークを行った。

調査期間中、マイスキー町周辺の両生類の種の分布を確認できた。最も多く見られたのはチョウセンヤマアカガエル (*Rana dybowskii*)、黒龍江林蛙 (*Rana amurensis*)、アジアヒキガエルである。

アジアヒキガエルの好きな生息地は畑で、チョウセンヤマアカガエルと黒龍江林蛙がナンテ (Nante) 小川の岸を好んでいる。マイスキー町中心部では両生類は見られなかった。低層建築物周辺では種の多様性が低い。ナンテ小川周辺の森林や公園では種の多様性が高い。

調査結果によると、ソヴェツコ・ガヴァニスキー地区の両生類へ与える人間活動の影響は大きくない。アジアヒキガエルのようないくつかの種類は住宅地にも見られる。

黒龍江林蛙、チョウセンヤマアカガエル、アジアヒキガエルは中国と韓国にも生息している。チョウセンヤマアカガエルは日本にも生息している。

私たちは違う国に住んでいるが、生物相と植物相で多くの共通点がある。これからも一緒に生物多様性を保護しよう！

- 9 発表時の発表媒体の有無
有 (Power point)